

聖書日課 『からし種』 2022.7.24-7.31

<p>7月24日 (日) 黙示録 22章</p>	<p>「然り、わたしはすぐに来る。アーメン、主イエスよ、来てください。主イエスの恵みが、すべての者と共にあるように」(20～21節)。キリストが再臨は、いつ、どんなタイミングで来るのか成就するのかわからない。それでも私たちは、キリストは来る！アーメン(然り)と言いながら、主の恵みが全ての命の上にあること祈り続けていきたい。</p>
<p>25日 (月) 創世記 1章</p>	<p>「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった」(31節)。神ご自身が創られた全ての物を、神ご自身は、極めて良いものとしてくださっている。私たち、人だけでなく、神の被造物、全てが良いもの。神が創造されたものを大切に受け取っていく私たちとされたい。</p>
<p>26日 (火) 創世記 2章</p>	<p>「天地万物は完成された。第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なされた」(1～2節)。神でさえ、天地万物を創られ、完成されたあと、御自分の仕事から一旦「離れて」安息された。ずっと働き続けるというのは、どこかに歪みが出てくる。神がつくってくださった安息の時に大切にいただきたい。</p>
<p>27日 (水) 創世記 3章</p>	<p>「お前は顔に汗を流してパンを得る。土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る」(19節)。コヘレトは、私たちの歩みを「空しい」と語る。塵に過ぎない私たちは、空しい歩みでも顔に汗を流して日常の糧を得る歩みの中にある。塵に過ぎない私たちにも命を吹き込んでくれていることを覚えて歩みたい。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

<p>28日 (木)</p> <p>創世記 4章</p>	<p>「アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった」(2節)。アベルもカインも神から、それぞれの賜物にあった働きが与えられた。二人の働きは違う。私とは「関係ないこと」だけれども、関係ないから知らないではなくて、羊を飼うだけ、土を耕すだけの働きの中に、神の業が溢れていることを思いつつ、それぞれの働きを担っていくことができますように。</p>
<p>29日 (金)</p> <p>創世記 5章</p>	<p>「神は人を創造された日、神に似せられてこれを造られ・・・創造の日に、彼らを祝福されて、人と名付けられた」(1～2節)。神ご自身に似せて、人を造られたと聖書は語る。そして、創造した日に、その存在に名前を「人(土という意味)」と名付けられた。土くれにすぎない者に、神ご自身が命の息を吹き入れ、その命の息が私たちにも吹き入れられている。</p>
<p>30日 (土)</p> <p>創世記 6章</p>	<p>「わたしはあなたと契約を立てる。あなたは・・・妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい。またすべて命あるもの、すべて肉・・・が、二つずつあなたのところへ来て、生き延びるようにしなさい」(18～20節)。神は、ノアに家族、また命あるものすべてと共に生き延びるようにと語りかける。地上に人の悪がましても、それでも命を大切にされる神を覚えて歩みたい。</p>
<p>31日 (日)</p> <p>創世記 7章</p>	<p>「ノアは、すべて主が命じられたとおりにした」(5節)。ノアは「地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを思いはかる姿に心を痛めた神」(6:5 以下)が命じられた言葉をどう聴いたのだろう。その神が今の世界をご覧になる時、ノアの時以上に心痛めておられるのではないか。今の私たちにとって「すべて主の命じられたとおりにする」とはどういうことだろうか。</p>